

(1) 委員からのご意見への対応等

第2回検討会での御指摘と対応

	No	御指摘事項	対応状況
抽出手法関連	1	・流域面積の定義をしっかりと記載した方が良い。	・今後策定する手引きへの記載にあたって、技術参考にて流域面積の定義を含め、対象河川の抽出手法に関して丁寧な記載をいたします。
	2	・山地以外にも、碎石場や田畑が土砂流出に関係する可能性があることを留意事項として記載すべき。	・今後策定する手引きへの記載にあたって、採石場等が流域内に存在する場合には留意が必要な旨を記載いたします。
浸水分布評価手法関連	3	・ u_*/w_0 の物理的な意味・閾値設定の部分について、その評価はどのように行っているのか。過大にならないように留意する必要があるかと思うので、手引きに記載する際には、留意が必要。	・ u_*/w_0 には粒径設定等に起因する不確実性が含まれているため、閾値については、一意に決定することが困難である旨を今後策定する手引きに記載し、実河川での適用例という形で紹介いたします。
	4	・L2流量を流下させた際に、リスク情報の空白域が発生しないかの確認をした方が良い。	・L2流量を流下させた場合の結果を資料2-2に示しました。
	5	・径間長20m以下だと橋梁に流木がたまる根拠について、収集した事例の数値を出しながら丁寧に示すべきではないか。先行研究等もあると思うので、引用する形で良いと思う。	・今後策定する手引きへの記載にあたって、技術参考にて収集事例を紹介した上で、関連研究に関する記載をします。
	6	・塚田川の上流側の計算水位と痕跡水位があっていない。痕跡水位を参考に、水位を所与として与え、流速を算定し直すことをやってみるのはいかがでしょうか。	・塚田川を例に、地被状況を踏まえた粗度係数の設定や樹木群・家屋の死水域の影響を調べました。加えて、準2次元不等流計算を実施し、境界混合係数の影響を調べました。 ・得られた抵抗条件を赤谷川にも適用し、粗度係数を含む抵抗の設定について整理を行いました。(資料2-2)
	7	・ n は時空間的に大きく変わっている可能性がある。大量の土砂が流れているときは、基準面が変わるため、水深 h も変わる。また、河床の状態が変わるため、 n も変わる。それらの影響も評価しないといけないが、このことはできていないことを課題として書くべき。	・今後策定する手引きに、課題として記載します。
家屋流失関連	8	今回、家屋流失を適切に評価できなかったのが、1次元不等流計算による影響、土砂の混入による影響等、どのような影響が考えられるのか検討すべき。	・実際に生じていたと考えられる事象と計算で考慮していることの対応を整理しました。(資料2-3)
	9	エネルギーを用いて、家屋流失の危険性を考えてみてはどうか。	・平面2次元計算結果を用いて、最大比エネルギー分布を整理しました。(資料2-3)
	10	流失をしなかった家屋の地形的特徴も整理すべき。 流失した家屋の築年数から新耐震基準の家屋かどうか評価等することが必要。	・流失をしなかった家屋について、地形的特徴を整理しました。目視により建築年代を分類し、流失・非流失の件数と建築年代分類との関係を整理しました(資料2-3)。